



第6位「トロイアの女」(The Trojan Woman) (71・ギリシア=英)  
監督ミカエル・カコヤニス、主演キャサリン・ヘバーン、ヴァネッサ・レッドグレイヴ  
ギリシャの古典悲劇を映像で演出したカコヤニスの「トロイアの女」が、いちばん強い感銘を与えた。  
(滋野眞彦)



第7位「さすらいの航海」(Voyage of the Damned) (76・英=スペイン)  
監督スチュアート・ローゼンバーグ、主演フェー・ダナウェー、オスカー・ウェルナー  
「さすらいの航海」のシドーは私にはない男らしさの味。  
(田山力哉)  
「さすらいの航海」の堂々たる風格。  
(渡辺祥子)



第8位「スラップ・ショット」(Slap Shot) (77・米)  
監督ジョージ・ロイ・ヒル、主演ポール・ニューマン、マイケル・オントキーン  
「スラップ・ショット」はここ数年のアメリカ映画の傑作である。  
(白井佳男)  
スポーツが映画に新しい人間観察の場を提供しているようだ。  
(登川直樹)



第9位「ウディ・ガスリー／わが心のふるさと」(Bound for Glory) (76・米)  
監督ハル・アシュビー、主演デーヴィッド・キャラディーン、ロニー・コックス  
「ウディ・ガスリー／わが心のふるさと」は、前半がとくに好きです。砂嵐の場面に息をのみ、感動しました。  
(品田雄吉)



第10位「ザッツ・エンタテインメントPART2」(That's Entertainment, Part 2) (76・米)  
監督ジーン・ケリー、ミュージカル・アンソロジー  
「ザッツ・エンタテインメントPART2」は大好きですが、過去の遺産で食べてます、という感じがして…  
(渡辺祥子)

## 選出者のコメントから



第1位「ロッキー」(Rocky) (76・米)  
監督ジョン・G・アヴィルドセン、主演シルヴェスター・スタローン、タリア・シャイア  
たとえ假か仕立ての感はあるにしても「ロッキー」には新鮮な魅力がある。スポーツ映画のダイナミズムと不器用な心やさしさが同居するおもしろさだ。  
(登川直樹)



第2位「鬼火」(Le feu follet) (63・仏)  
監督ルイ・マル、主演モーリス・ロネ、ベルナール・ノエル  
十年以上も前の旧作フランス映画がトップになるとは心情的には残念ですが、これは大作作です。  
(田山力哉)  
まことに切々と心にしみる秀作。  
(佐藤忠男)



第3位「ネットワーク」(Network) (76・米)  
監督シドニー・ルメット、主演ウィリアム・ホールデン、フェー・ダナウェー  
「ネットワーク」は大げさすぎるが痛烈な問題提起にうなづけるものがあった。  
(佐藤忠男)  
「ネットワーク」のフェー・ダナウェーの大熱演には舌を巻いた。  
(飯高 正)



第4位「惑星ソラリス」(Solaris) (72・ソ)  
監督アンドレイ・タルコフスキー、主演ナターリヤ・ボンダルチュク、ドナタス・パニオニス  
今年はその感性において私を捉えて離さなかった個性的なSFに賛辞を贈りたいと思う。(河原晶子)  
「惑星ソラリス」はソビエトの体制内抵抗派の大傑作だと思う。  
(佐藤忠男)



第5位「自由の幻想」(Le fantôme de la liberté) (74・仏)  
監督ルイス・ブニュエル、主演ジャン・クロード・ブリアリ、モニカ・ヴィッティ  
ブルジョワ主権の政治・社会を痛快に皮肉った内容をストーリーとスターで組み立てる劇映画の常識を完全に脱飛ばした型が見せる。  
(清水千代太)